式　辞（本校）

2021.3.1

森山直太朗の「さくら」という曲に『泣くな友よ　今惜別の時　変わらないあの笑顔で　さあ』というフレーズがありますが、それを想い起こさせる旅立ちのときが、いよいよやってきました。確実に春の訪れを覚える今日の佳き日に、同窓会長　関谷勝嗣様をはじめ御来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立松山北高等学校第７２回卒業証書授与式を挙行できますことは、教職員並びに在校生にとりまして大きな喜びであります。ここに厚くお礼を申し上げます。

352 名の皆さん卒業おめでとう。在校生、教職員、また、立石前校長をはじめとする旧教職員の皆さんとともに、心からお祝いの拍手を送ります。同時に、疾風怒濤の青春の時を全力で駆けている皆さんに、無償の愛を注ぎ、支え、励ましながら、この日を待ち望んで来られました保護者の皆様にも、衷心よりお慶びを申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。皆さんとは、２年間のお付き合いでしたが、特に、創立 120 周年の節目の年を迎えた今年度、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮い、愛媛県総合体育大会をはじめとする多くの教育活動が中止、縮小を余儀なくされたことは、誠に心が痛むことでした。各種記念行事も順延となり、台湾の学校との姉妹校提携・スポーツ交流や北高オリンピック等の企画は来年度に持ち越しとなりましたが、そのような状況においても、「文武心」の校訓のもと、さらなる高みを目指して精一杯頑張った体育大会等のそれぞれの場面は、鮮烈な思い出として、皆さんの心に深く刻まれていることと思います。いつも前向きで、明るく元気に活動した皆さんに、改めてお礼を述べたいと思います。笑顔と感動を本当にありがとうございました。

ところで、今回のコロナ禍により既存の枠組みや価値観は崩壊し、多くの変化がもたらされました。予測不可能な時代になったと嘆く声がありますが、そもそも予測可能な時代などあったのでしょうか。また、コロナ禍の前は平和で安定し、皆が幸福に暮らしていたわけでもありません。だからこそ、春秋に富む皆さんは、自分を種々の拘束や強制から解き放って、頭を使い柔軟な発想でもって新たな価値観を創り出していってくだい。『君たちはどう生きるか』まさに、マニュアルや指示に従うだけでなく、自ら考えて課題を解決することが必要とされる状況です。試行錯誤を繰り返す中で、自分なりの新しい答えを見つけてください。人生の最も多感な時期における今回の経験が、この困難を克服したとき、皆さんが力強く人生を送るための礎となると信じています。また、インターネットが生活の中心に据えられて歩むアフターコロナの社会形態は、もうあと戻りすることはないでしょう。しかしながら、ツールは変わろうとも、思考と感受性の源は「ことば」にあります。母国語に対する深い愛情を持ち、美しい日本語を身に付けようとする姿勢を、生涯大切にしてもらいたいと思います。

さて、旅立ちに当たり、餞として「一期一会」という言葉をお贈りします。全ての時間は、二度と戻ってこないたった一度きりのものだからこそ、誠意を尽くして全力で生きてもらいたい。皆さんは「祇園精舎の鐘の声」で始まる平家物語や、「行く川の流れは絶えずして」で始まる方丈記を学習したと思います。そこには、この世を滅び行くはかないものと観ずる無常観が根底に流れています。命には限りがあり、極論すれば人間は死ぬために生まれてきたともいえるのです。しかし、吉田兼好は徒然草の中で「世は定めなきこそ　いみじけれ」と喝破し、世の中は無常であるからこそおもしろいのだ。永遠の生命が与えられたら、どんなに人生はつまらないことだろう。」と無常を積極的に肯定しています。無常観におかされて生きることを否定しようとする思想を突き抜け、無常であるからこそ人生を充実させようと生きることを肯定したからこそ、兼好は中世の偉大な思想家と成り得たのです。自らの人生を祝祭するか、陰鬱な苦役とするかは自分次第です。同じ生きるなら、限りある人生を夢中になって楽しみながら生きたいものです。また、そのためには、「楽しいことをする」のではなく「することを楽しむ」と発想することが大切です。登山の目標は山頂と決まっていますが、人生の面白さ、生命の息吹の楽しさは、その山頂にはなく、かえって逆境の、山の中腹にあります。生きることの楽しさや喜びを、そしてまた、時には苦しさや悲しみもじっくりかみしめ味わいながら人生を歩んでください。

1900 年に城哲蔵先生が創立し、秋山好古校長の時代を経て大きく発展してきた本校は、来年度の創立 12１周年へ向かって歩みを続けています。強い母校愛と絆で結ばれ、「一朶の雲」を目指して勉学に励み、巣立っていった卒業生は、４万人を超えています。これからは、松山北高の卒業生であるという誇りと自信を生涯持ち続けてください。

『さくら』は、次のようなフレーズで締めくくられています。

『さらば友よ　またこの場所であおう　桜舞い散る道の上で』

皆さんが、それぞれ置かれた場所で、誰かのために生きていると実感しながら、心豊かな人生を送られることを祈念いたしますとともに、御臨席の皆さまの御健勝、御多幸を心から祈念申し上げまして、式辞といたします。

令和３年３月１日　　愛媛県立松山北高等学校長　　長井　俊朗